

<運動方針の考え方と進め方>

1. 新たな組織基盤の確立と組織の健全化

(1) 組織統合と新組織体制の確立

フォームズユニオンは、将来に向け組織のあるべき姿について議論を進めてきた。一方、企業は、事業統合による新会社への移行や製造部門の統合などを含め、大きな変革期にある。この様な状況下、労働組合は過去に類を見ない程の大きな変革に迫られている。従って、フォームズユニオンとしての組織力と求心力を向上させるべく、フォームズユニオン東海との組織統合を行う。また、組織形態について、フォームズユニオン全体を中核に、新たな企業体制を考慮した本部体制への移行、そして支部・分会の一部名称変更と明確化を図っていく。

(2) 人材育成と組織機能の向上

近年、各級役員の若返り、業務負担や個々人のライフスタイルの変化などにより、組合運営・活動に携わる時間が減少傾向にある。しかしながら、労働組合は企業運営はもとより、働く従業員にとって非常に大切な組織である。また、組合組織をけん引する組合役員の能力と行動力は重要な役割を担っている。その様な中、不足傾向にある役員としての知識と行動力向上に向けた実践的教育活動に取り組んでいく。また、決定された計画や取り組みが着実に遂行され、組織全体の活性化と健全化に努めていく。

(3) 専門性を有した機構の活性化

組合員の身近な活動と組織活性化の原動力となる専門部（教育・広報・文厚・調査・財政）、若年層や女性を中心に組織形成している青年・女性委員会、各種取り組みへの基礎づくりと事前調整を行う場として設置している各種小委員会（労働条件・生産性・福利厚生）について、ここ数年間の取り組み状況は低調にある。従って、各種の役割や重要性を学び直すと同時に、それぞれの機構のあり方について再認識していく。また、一部担当を見直しつつ、機構の活性化と求心力向上に向け取り組んでいく。

(4) 組織の検証と改革に向けた取り組み

フォームズユニオンは、組合結成50年を目前に組織の大きな変革に迫られている。その様な環境を背景に、50年の節目に向け組織全体の振り返りと検証を行いつつ、将来に向け盤石な体制を築いていかなければならない。従って、組織全体のあり方や予算（積立金）全般を含めた中で本格的な議論と検証作業に着手していく。また、昨年での定期大会で決議された「持株会社体制移行に伴う労働組合の対応について」、引き続きの対応を図っていく。一方では、昨年からの継続的な取り組みとして、「(仮称) 組合結成50年記念事業」の実現に向け取り組んでいく。

2. 組合員の安心追求とフォロー活動の推進

(1) 組合員サービスの向上

労働組合の原点である「職場活動と組合員への対応」は、労働組合を組織する中においては基本的な考えである。また、組合員の「安心と安定」は、常に追求していかなければならない。この様な中、取り巻く環境の変化や半世紀の組織形成を目前に、我々フォームズユニオンは原点に立ち返り新たな一步を、組合員とともに見出していかななくてはならない。そのためには、組合員に最も身近な専門部活動やスケールメリットを活かした労働組合独自の福利厚生制度など、更なる斡旋と充実に向け取り組んでいく。そして、培った取り組みや活動に対し、再点検を行いつつ職場に根差した活動を基本に、労働組合の価値感を高めていく。

(2) コミュニケーション活動の充実

企業の活性化は、職場の活性化にある。昨今、取り巻く環境や労働環境に大きな変化が生じる中、個々の私生活や会社生活においても多くの問題を抱えている組合員は少なくない。一方、多くの職場においては、非正規社員が多く存在し企業を支えている。従って、助け合いの精神と活気ある職場の構築に向け組合役員による職場巡回活動や世話役活動、そして職場集会などの日常的な職場活動に注力し、課題や問題点の吸い上げと、その解決に向け尽力していく。また、職場内コミュニケーション活動を推進し、スローガンである「Communication first」の実践に努めていく。

（３）対話活動の推進

対話集会活動については、過去から重要な取り組みとして推奨している。また、機能が発揮されることにより、組合員と組合役員の信頼関係が築け、組織全体としての求心力に繋がるものでもある。しかしながら、昨今の状況を鑑みるに、新型コロナウイルス感染症の影響や活動バランスの停滞などにより、成果には結びついていない。一方、企業やフォームズユニオンの現状、組合員の働く環境などを直視した中においては、対話集会の重要性は更に高まっている。従って、全国各職場の実態調査を行い、中央本部、支部、分会間の連携と計画性をもった取り組みを行っていく。

（４）健全な職場環境と健康・安全の確保

健康と安全は、企業運営上の絶対条件である。しかし、過度な時間外労働や抱える問題などによるストレスは、健康と安全を阻害するうえ、生産性を低下させる原因にも繋がる。この様な環境改善への取り組みとして、一部、形骸化が懸念される安全衛生活動の点検を実施し、しっかりとした成果を導き出していく。そして、最も大切な取り組みとしては、労働組合の原点である職場活動をしっかりと遂行することにより、より健全な職場環境の構築に尽力していく。

3. 労使関係と労働環境への取り組み

（１）労使関係と労働諸条件への取り組み

企業の生産性向上と発展は、我々の生活の源泉である賃金や働く環境の大前提にある。また、雇用や賃金を始めとする労働諸条件の原資は、労使の努力による生産性向上の増分付加価値で賄われるべきである。従って、生産性三原則の基本を再認識しつつ、生活の支えである給与と一時金、そして労働環境の維持・改善に取り組んでいく。一方で、企業は大きな変革途上にある。この様な環境下、年末一時金や春闘への取り組み、その他労使関係について、大きな変革期を背景に、メリットと成果に結びつく手法を慎重に吟味し対応を図っていく。また、企業の変化を考慮し、フォームズユニオンとしての組織体制を見直していくが、培った歴史と実績を最大限に発揮し、より健全で実りある労使関係の構築を目指すものである。そして、経営最大のパートナーである労働組合としての立場と役割を最大限に発揮していく。

（２）効果的な労使専門委員会の構築と充実

春季生活闘争からの継続課題や企業変革に伴う新制度への移行、新たな労使関係の構築など、労使が真摯に向き合い専門的に議論する場が必要不可欠である。また、新たな仕組みづくりなど、多くの課題や問題点が山積している。その様な中、企業変革への対応や日常における課題や問題点の共有と解決、そして労使交渉に向かうにあたっての事前協議の場として、労使専門委員会の役割は非常に重要である。従って、新たな組合組織を考慮した中で、労使専門委員会を再構築し、様々な課題に対して取り組んでいく。

（３）事業所労使関係の充実

労働組合の原点である職場活動、そして組合員のフォロー活動を推進していくうえで、各事業所を中心とする協議会や懇談会の役割は非常に大切である。また、健全な事業運営に対し最も重要である労働基準法や労働協約の遵守などは、各職場における労使の取り組みが大きく影響する。しかしながら、近年の状況を見るに一部の事業所において、その役割は低迷している感が伺える。従って、協議会、懇談会の定例化と質の向上、加えて緊張感を保ちながらの労使関係の再構築に努めていく。更には、労使間での連携を向上させながら、健全な事業運営のもと働きやすい職場環境と生産性の向上を目指す。春季生活闘争からの継続課題や新たな仕組みづくりなど、多くの課題や問題点が山積している。その様な中、日常における課題や問題点の共有と解決、そして労使交渉に向かうにあたっての事前協議の場として、労使専門委員会の役割は非常に重要である。従って、本部、支部を含め 労使専門委員会の重要性を再認識し、必要に応じた労使専門委員会を設置し積極的に取り組んでいく。また、企業変革に向けた労使専門委員会を完全なものにし積極的に取り組んでいく。

（４）労使事務局機能の充実

労使関係は、労使双方の信頼が最も重要で、労使関係の根幹をなすものは、労使事務局機能である。労使事務局機能は、事前調整や情報連携の場として重要な機能を有しているが、近年の状況を検証するに希薄化は否めない。従って、事務局機能の再認識と事務局案件の精査を行うことで、充実した内容と役割の明確化を図り機能性を高めていく。

4. 対外活動と社会的な取り組みの推進

(1) フォームズユニオン連合会への対応

フォームズユニオン連合会は、構成する企業が大きな変革を遂げており、フォームズユニオン連合会の将来について、議論を要する様な環境下にある。この様な状況下、フォームズユニオンが引き続きの中核組織となり、フォームズユニオン連合会の運動方針を着実に遂行していく。また、日常における情報連携を密にし、将来に亘り風通しのよい組織形成を目指していく。

(2) 印刷労連への対応

産業別労働組合の役割は、産業の発展と社会的・経済的地位の向上を目指し、そこで働く者の労働諸条件の改善に努めていくことである。フォームズユニオンは、印刷労連の中核組織として役員を派遣するとともに、その責任を果たしていく。また、印刷労連の運動方針に基づき各種活動を展開していく。一方、印刷労連内に存在する全国の地方協議会活動へは、支部ならびに分会より役員派遣を行い、連携と参画に努めているが、地方協議会体制のあり方や、印刷労連全体の運営に対し将来に向けた提言を行っていく。

(3) 連合活動への対応

日本における労働組合の中心的組織「連合」は、国や地域に携わる社会的に大きな課題に対し、積極的に取り組んでいる。引き続き、上部団体である印刷労連を通じて、フォームズユニオンが存在する各地域へ役員を派遣し、社会的な活動に取り組んでいく。一方、フォームズユニオンは、生活と働く安心・安定を常に求めている。しかしながら、企業内での取り組みや解決には限界がある。よって、連合などの大きな組織との連携により、生活と働く安心・安定を更に追求し、社会の一員としての責任を果たしていく。

(4) 友誼組織・友好労組との連携

友誼組織や友好労組との連携は、フォームズユニオンの組織基盤の強化や組織の成長を目指すうえにおいて必要不可欠な取り組みである。また、様々な活動や研修会への参画など、人材育成においても有効的な実績を積み重ねてきた。よって、過去からの歴史や取り組みを尊重し、各種教育機関や友好労組・団体への対応について、引き続きの連携を図っていく。一方、組合員に対するサービス向上への取り組みとして、団体でのメリットを活かした各種保険サービス、積立や財形、一部投資相談など総合受付の金融機関等、引き続きの対応と連携を図り、更には新たな福利制度の研究を行っていく。